

第1回 名勝木曾川の堤防整備に関する検討委員会

議事要旨

現状と課題、今後の進め方について、意見交換と質疑応答を行った。

現状と課題

〈意見交換〉

- 今後の検討にあたり、名勝の指定書に記載された重要な構成要素を確認し、その分布とつながりを整理の上、認識を共有することが望ましい。
- 日本ラインの溪谷美を織りなす露岩は、主にチャートで構成されており、その形成年代は、放散虫という微化石を用いて厚さ数 cm 程の単位で詳細に決められている。鶺沼宝積寺町の露岩は、形成年代の整理が詳細に行われ複雑な地質構造が解明された、日本列島を代表する地域の一部に当たっている。その意味で、露岩はできるだけ保全することが望ましい。
- 景観は両岸から大きく捉えるべきで、今後の検討にあたっては、説明資料 P2(名勝)と P3(自然公園)の指定状況について、左岸側の整理も必要となる。
- 堤防整備について、各務原市都市景観条例の手続きは要さないが、重点風景地区が持つ現状の景観の保全という趣旨への配慮が求められる。
- 水神の碑や渡し跡の跡・碑、住宅地と河畔との往来通路、竹林について、今後の検討にあたっては歴史的な背景や地元の意識を確認し、認識を共有することが望ましい。
- 対象区間の堤防整備は、洪水に対する安全度の下流側との公平性からも重要だと考えられる。
 - 名勝を構成する要素の分布とつながり、左岸側の名勝と自然公園の指定状況、水神や渡しなど当該地区の歴史的背景等について、次回会議で資料を示し認識を共有する。

〈質疑応答〉

- 説明資料 P10 に示された河川整備計画の施行の場所が、今回の対象区間と一致していないのは何故か。
 - 河川整備計画の施行の場所は、「付近」と表現のとおり主な場所等を示したもので、整備の具体化と併せ必要に応じて変更していく。

今後の進め方

〈意見交換〉

- 次回会議の内容が設計(原案)と予定されているが、それに先立ち設計方針の確立が求められるため、次回会議では、堤防・護岸の構造や形態について、考え得る案や事例を複数示し意見交換することが望ましい。
- 当委員会で確立した設計・施工に関する内容が、工事を実際に進めていく際に正しく履行されるよう、中途段階の節目で確認する機会を設けることが望ましい。
 - 次回会議では、堤防・護岸の複数の案や事例をもとに、設計方針の意見交換を行う。履行確認機会の持ち方については、次回以降の会議で案を示し意見交換を行う。